

第5章：どう設置するか（施工）

5.1 施工時における留意点

水田魚道の施工時においては、営農の障害とならないことや、魚がしっかりと遡上できるように現地で工夫を行い、適切な設置を行います。

【波付き丸型の水田魚道の設置事例】

（愛媛県西予市の事例（中国四国農政局土地改良技術事務所設置））

設置前

留意点：田んぼに入水すると田面が若干下がるため、想定水田面より5cmほど低い位置に魚道のみ口を設置するとよい。



材料の準備



畦畔掘削



畦畔掘削完了

設置

留意点：呑み口部からの漏水に注意する。
畔土に水を加えながらよく突き固める。



平面エルボ設置



スラントによる角度調整



波付ポリエチレン管の取付け



ソケットに止水板の取付け



波付ポリエチレン管の接続



杭での固定

留意点：エルボとポリエチレン管との接続から漏水を防ぐため止水板を取り付ける

82.



魚道入口への浮きの設置

83.



魚道全景(下流側から)

84.



魚道全景(上流側から)

出口に浮き（ペットボトル等）を固定し、呑み口が水面に浮くようにする。（魚類は水を叩く音に引き寄せられるため、水没していると集魚効果が落ちる）

通水

85.



ポンプによる通水

86.



通水試験

87.



通水試験(水深の測定)

設置した田んぼに入水が出来ない場合は、ポンプ等を使って通水試験を行い、通水状況を確認する。
流量の状況を必要に応じて調整を行って完成させる。

完成

5.2 施工の参考となる文献

水田魚道の設計、設置、施工にかかる参考文献としては、水田魚道設置までの流れや、農地・水・環境保全向上対策などでの設置事例、モニタリングの結果などを紹介した『水田魚道づくりの指針』（平成22年3月（社）農村環境整備センター発行）があるため、参考にするといよい。

